

スポーツと健康をキーワードとするまちづくり

= 住みたいまち、訪ねたいまちの形成 =

はじめに

私たちは「人々が生き生きとした生活を楽しんで、自分達のまちに誇りを持ち、他の地域に住んでいる人ともお互いの良さを認識し学びあい交流が盛んなまち」に住んでみたいと考えます。

そういったまちにはアイデンティティが重要視されますが、そのなかで私たちは「スポーツを楽しみ、健康に過ごせるまち」つまり「住民が夫々スポーツを楽しみ、域外からプロやアマチュアのスポーツ団体等が合宿に訪れるまちづくり」を合言葉として提案したいと考えています。

と同時に、このようなまちには地域住民はもとより、訪れる人々が、スポーツを「行い」「観て」「交流する」ためのスポーツのハード・ソフトや道路・交通インフラの整備が必要とされ、地域の文化やグルメなど楽しめる施設整備も必要とされます。

まちづくり手法としての「スポーツと健康」キーワード設定とその目的

まちづくりにあっては、その地域の自然や歴史・文化をはじめ産業特性等を基盤に置き、社会のマクロトレンド変化に即した方向性を設定して具体的なプロジェクトを構想し、その実現が進められています。

具体的には「有機農業のまち」であり、「高齢者福祉のまち」、「生涯学習のまち」など等です。

当稿では、住みたいまち、訪ねたいまち形成のキーワードとして「スポーツと健康」をおきました。

私たちが住む鹿児島県は、南国の温暖な気候、変化と魅力に富む山・海・温泉を有しています。農畜産物（食肉・野菜・茶）は生産量・品質とも全国 1～2 位の産品も多く、食資源も豊富です。また、過疎地である負の要因も、逆に見れば広大な土地利用というポテンシャルとなり、諸計画実施の際の大きな可能性を秘めています。一方、社会のマクロトレンドは、高齢社会の中で真の健康・長寿の生き方を実現する方向へ進んできました。

上記を基に、地域の人々が多様なスポーツを楽しみ、健康を増進するとともに、プロやアマチュアのスポーツ合宿等を誘致して経済効果も高められるまちづくりを提起するものです。

スポーツと健康をキーワードとするまちづくりとは？

スポーツと健康をキーワードとするまちづくりとは、「スポーツのハードやソフトが整い、住民が健康にして夫々にスポーツを楽しみ、スポーツ合宿等、他所との交流も盛んなまち」です。

全体的まちづくりの体系は次ページに掲げます。

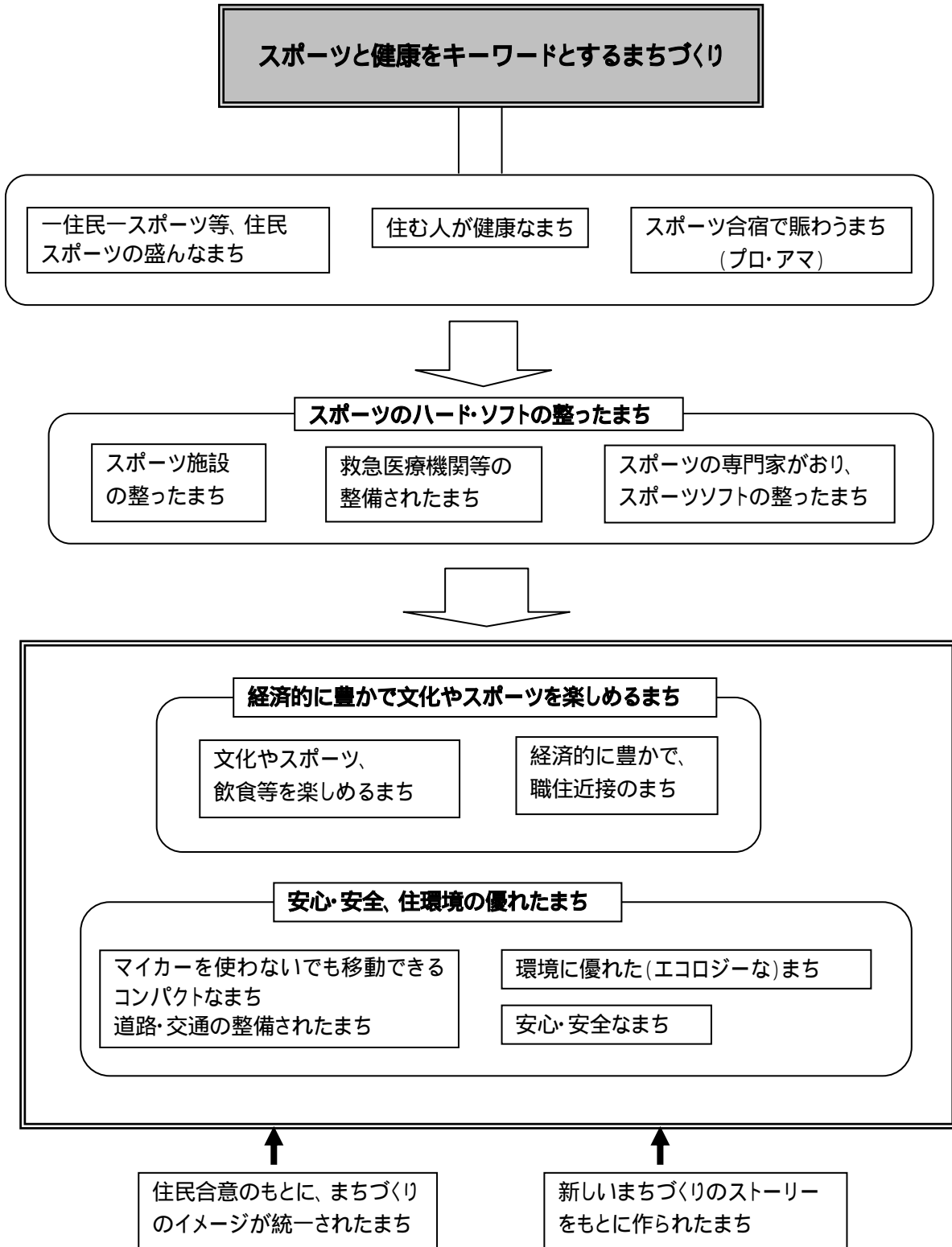
スポーツと健康をキーワードとするまちづくりにおいて期待される効果

スポーツと健康をキーワードとするまちづくりの整備効果として、以下のことが挙げられます。

1. スポーツのハードやソフト整備が図られ、「一住民一スポーツ」等を通じて住民の健康が増進されること。
2. プロやアマのスポーツ合宿によって交流人口が増大、経済効果がもたらされること。
3. 道路や交通インフラ等が整備され、地域住民はもとより、訪れる人々が地域の文化やグルメなど楽しめるまちが形成されること。

= 住みたいまち、訪ねたいまちの構成要素 =

まちの構成要素等の全体体系



スポーツと健康をキーワードとするまちづくりの体系

全体的まちづくりの体系は前ページの通りですが、以下、具体的なまちの構成要素について提起します。

[1] スポーツのハードやソフトが整い、住民が夫々にスポーツを楽しみ、健康な生活を営めるまち

(その1) [住民スポーツ]

まず、「一住民一スポーツ」等、住民スポーツの盛んなまちづくりを目指します。具体的には、住民が夫々にスポーツを楽しみ、年間スケジュールのもとにスポーツ大会も盛んに開催されるまちです。

このために、スポーツ施設や救急医療機関等の整備が必要とされます。また、泉源数全国第2位を誇る鹿児島島の温泉が癒しやリハビリテーションなどにその効果を発揮します。

まちには、各種スポーツ団体が育成され、活動が盛んです。このために、スポーツの専門家や指導者が必要とされ、スポーツのソフトも整備、住民スポーツのまちとしてその存在性を標榜します。

また、国立唯一の体育単科大学である鹿屋体育大学における「スポーツ医学」・「コーチ学」等の研究成果の集積を利用できる仕組みづくり等が考えられます。

(その2) [健康なまちによる経済効果]

住民によるスポーツ習慣の向上は、住民の健康度を高めることにつながり、医療や福祉面の経済効果だけでなく、犯罪抑止にも貢献します。

[関係データ…スポーツや運動と医療費]

日本の国民の医療費（平成16年度：厚生労働省報告）は32兆円、国民所得の8%に相当

1人あたりの医療費…65歳以上では64万円、65歳未満では14万円（平成12年度）

運動不足の人はそうでない人に比べて年間11万3,000円（1ヶ月1万円弱）医療費を多く使っている。（40歳～79歳52,000人の国保加入者を23ヶ月追跡調査、1999年：東北大学）

1週間に1回以上何らかの運動やスポーツを行う県民 = 43.9%、同左しない人 = 56.1%（平成15年8月：鹿児島総合研究所による県民調査）

170万人鹿児島県民のうち、運動可能な人を150万人とし、及びで試算すると、運動不足による医療費負担増は、 $113,000 \text{円} \times 1,500,000 \text{人} \times 56.1\% = 95,089,500 \text{千円}$ と約950億円となる。

[2] プロ・アマのスポーツ合宿による交流人口の増大と経済効果がもたらされるまち

住民が夫々にスポーツを楽しむとともに、スポーツのハードやソフトを活用したスポーツ合宿の招請が望まれます。つまり、住民一体となったスポーツ・コミッションとしての積極的な活動です。

住民がスポーツ・コミッションに理解を示すとともに、率先してスポーツ合宿等を招請するまちが望まれ、合宿するスポーツ団体等をホスピタリティー豊かにサポートする住民の意識醸成も必要とされます。

(その1) [スポーツ合宿の種目]

スポーツ合宿の種目も多様ですが、施設ごとに主なものを列挙します。

下記は、社会人と児童生徒、プロとアマチュア、県内と県外、若年層と高齢者層等階層的に分かれます。

芝グラウンド・クレイグラウンド・多目的グラウンド…サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール、ハンドボール、ラクロス、ソフトボール

テニスコート…軟式テニス、硬式テニス

体育館…バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、チアリーダー

武道場…剣道、空手、日本拳法、柔道、少林寺、テコンドー

ホール…吹奏楽、合唱、軽音楽

野球場…軟式野球、硬式野球

(その2)[スポーツ合宿の経済効果]

スポーツ合宿による経済効果が期待できるが、2004年沖縄県におけるプロ野球春季キャンプの経済効果のデータで見ると、キャンプ関連の直接支出額に対する生産誘発額は1.5倍と試算されます。

[関係データ…2004年沖縄県におけるプロ野球春季キャンプの経済効果]

キャンプ関連の直接支出額 ……29億400万円

生産誘発額 ……43億4000万円(上記を含む総合効果)(14億3600万円の増)

直接支出額に対する波及効果 …1.5倍(÷)

に係る産業別生産誘発額(主要項目のみ)

(宿泊業) ……8億4000万円

(鉱業・製造業) ……5億7000万円

(飲食店) ……5億3000万円

(娯楽サービス業) ……3億9000万円

合計 23億3000万円

上記の他に港湾や空港、道路、建築物等の整備費があるが、これらは含んでいない。

[3]内外の人々のコミュニケーションが盛んなまちを目指して！

これまで、スポーツ活動や健康生活を中心として「スポーツと健康をキーワードとするまちづくり」のイメージを描いてきましたが、まちの要素としては「住民や訪れた人にとって毎日楽しく生活できること」が挙げられます。

(その1)[文化性]

毎日どこかでコンサート等を楽しめ、伝統工芸が豊かで、その担い手として優れた芸術家や技術者が住むまちです。このためにはまちづくりのコンセプトに基づき、文化施設等の整備が必要とされます。

また、まちの歴史が活かされ、歴史を継承できるまちであり、まちの文化や歴史、自然等に関して生き字引的人の存在も望まれます。

まちには、鹿児島の豊富な食材を生かしたグルメを楽しめる飲食店が並び、住む人訪れる人を魅了します。

(その2)[交通・住環境]

経済的に豊かで、職住近接のまちが望まれます。具体的には、通勤等で渋滞のないまち(職住近接)です。

マイカーを使わないでも移動できるコンパクトなまちであり、トランジットモービルが整備され、公共交通機関の整ったまち、道路が整備され、人々が歩いてみたくなるまちがイメージされます。

(その3)[ホスピタリティー]

住民一体となったスポーツ・コミッションによるまちづくりにあっては、訪れる人々に対して住民によるホスピタリティーが特に重要となります。

(その4)[エコロジー]

環境に優れた(エコロジーな)まちが必要とされます。コンクリートと緑の共生できるまちであり、ヒートアイランド現象のないまちが望まれます。

(その5)[安心・安全なまち]

交通や災害等、安心安全でバリアフリーなまちが望まれます。

(その6)[まちづくりのストーリーづくりと住民合意]

いずれのまちづくりも住民合意が前提となりますが、地域資源やポテンシャルを最大発揮させて「スポーツと健康をキーワードとするまちづくり」を進めるに際してはコンセプトをスポーツに特化するがゆえに住

民の合意形成が重要となります。

進め方としては、官がリーダーシップを発揮しつつ、スポーツと健康をキーワードとするまちづくりの概要イメージと経済効果等に係る関係資料を示し、住民による評価を問い、住民主体による新しいまちづくりのストーリーを描き、合意形成を図っていくことが必要とされます。

終わりに

住みたいまち・訪ねたいまちのイメージとして「スポーツと健康をキーワードとするまち」をおきました。

具体的には、「スポーツのハードやソフトが整い、住民が健康にして夫々にスポーツを楽しみ、スポーツ合宿等、他所との交流も盛んなまち」です。

このようなまちを形成するには、道路や公共交通機関等のインフラ整備とともに、スポーツ施設の建設やリニューアル、地域住民はもとより来訪者をもてなすための料飲店やコミュニケーション施設、文化施設等の整備も必要とされます。結果として公共工事費の増大を招くこととなりますが、これらの投資が住民福祉と新しいまちづくりにつながることであれば、このようなまちづくりを積極的に進めるべきと思います。

医療費の高騰という社会的な問題点がありますが、どんなにお金があっても体が健康でないことには楽しみは半減すると私たちは考えております。それだけにこれからの時代にあっては、健康維持は欠かせない要素と考え「スポーツを中心としたハード・ソフト両面のバランスと充実を図るまちづくり」を提案します。

そして、活き活きとした人が一人でも増えることは自分たちのまちだけではなく、交流しているまちや人、そしてその先にある世界のまちや人を元気にし、その地域を活力のあるまちへと誘っていくのではないのでしょうか。

そう考えて、今回のまちづくりを提案いたします。

以上